

リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2024年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務			作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋㈱	
工期	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日			作成者	鈴木 悠平	
作業名称	防護柵に伴うCoシール撤去		作業手順書	作成年月日	令和5年9月19日	
使用機械 使用設備 (具体的な名称・ クラスを記す)	4tユニック、3tダンプ、連絡車			改正年月日		
使用工具、機器 材料等(具体的な 寸法を記す)	エンジンカッター、ブレーカー、チップパー、石頭ハンマー、大ハンマー、スコップ			現場責任者		
	大型土のう、飛散防止ネット、コンプレッサー、手鎌			協力会社	会社名 -	
保護具	ヘルメット、手袋、保護メガネ、振動手袋、耐切削手袋			作業順序	1	現地確認
	自動車運転免許証 振動工具				2	準備作業
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特) の区別を記す	作業責任者 1人、作業員 4人、保安員 2人				3	事前準備(草刈)
	合計 7名				4	Coシール撤去
作業人員 (当作業に関わる役 割と人員を全て記 す)	作業責任者(職長)		周知会実施日		5	後片付け
	(役割を確認してこの作業に関わ る全員が自署サインする)		令和5年9月19日		6	Coガラ運搬
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)					7	
					8	

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可能性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○△	○×	○○	1:極めて小さい	関係者に対する周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△△	△×	○△、△○	2:かなり小さい	関係者に対する指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×△	××	○×、△△、×△	3:中程度	職長が確認
				△×、×△	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
				××	5:極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対する指示 1=関係者に対する周知

作業項目	手順	急所	リスクの洗い出し (予想されるミス・ロス)	可能性	重大性	評価点	リスクレベル	ミス・ロス	リスクの除去・低減のための 実施すべき事項の特定 (防止対策)
現地確認(全員)	(誰が) 主なステップ	作業のポイント							
	作業箇所確認	危険ポイントの確認							
	周辺安全確認	構造物の確認							
準備作業(全員)									
	ミーティング	健康状態の確認 免許・資格等の確認							
	車両の点検・準備	車両の始業前点検、 工具の確認							
		健康状態の確認・免許・資格等の確認・光物(チョッキ・脚絆・ヘッドライト等)の充電確認・業務用プレートの確認、入場方法・入場箇所・車両順番・役割分担の確認・車両の始業前点検、工具の確認、積み込み荷の確認(落下・飛散対策)荷締め位置、荷台のネット・シート掛けの確認する。工事車両幕がロープ及び養生テープで確実に固定されていることを確認。 担当者は施工計画段階でNEXCOと打合せした内容を作業者へ周知・報告すること。 車両出入庫の際に、運転手は車両の周囲(上下含む)を指差し、障害物が無い事を確認のうえ、出入庫する。							
事前準備(草刈)	施工箇所が草でおおわれていたら、手鎌にて処理する。	手元注意 耐切削手袋	手鎌で手を切る	×	△	×	4		耐切削手袋を着用し作業する。
Coシール撤去 (責任者、作業員)	撤去するCoシールをマーキングし、撤去する箇所を確認する。	手元注意 □80×80cmで撤去、図面確認							
	Coシールにマーキングした箇所をエンジンカッターにて縁切りを行う。	設置位置確認	エンジンカッターで手を切る	△	×	△	4		振動手袋を使用し、施工箇所周辺に立ち入らないよう周知する。
	ブレーカーを使用しCoシールを撤去する。	手元注意 飛散防止ネット設置	Coガラが飛散し、第三者被害になる	△	×	△	4		飛散防止ネットを設置し作業する。
	大型土のうをダンプに配置し、Coガラを回収し、周辺を清掃する。								
後片付け (責任者、作業員)	清掃	破片、工具等が残っている							
Coガラ運搬 (責任者、作業員)	Coガラを処分場まで運搬する。								工事車両幕を取外した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事